

2025年7月18日（金）～19日（土）
秋田駒ヶ岳（1637m）＆乳頭温泉三昧、角館武家屋敷散策

秋田駒ヶ岳登山は14年振りです。

秋田駒では7月上旬位から高山植物が咲き始めるそうですから、今回計画の7月中旬の時期は、花をしっかりと楽しめるとと思います。我々が登るルートは、最もポピュラーな初心者コースです。

初日は田沢湖周辺の散策、角館武家屋敷散策、乳頭温泉入湯三昧を計画しています。二日目は、早朝に出立して秋田駒ヶ岳の山頂に立ちます。

参加者は、熊本さん、堀さん、根岸さん、中島さん、堀内さん、吉松の6人です。

レポート by 吉松

7月18日（金）晴れ；田沢湖＆角館武家屋敷散策、乳頭温泉入湯三昧

宿泊；休暇村 乳頭温泉郷

いよいよ梅雨明け宣言が出るようです。数日前まで雨模様でしたが、今日は青空となりました。各地散策には最適な日和となりました。

全員東京駅に集合して、6時32分発の「こまち1号」に乗車しました。

「こまち1号」は新函館北斗駅に向かう「はやぶさ1号」と連結されていて、盛岡から切り離されて在来線のレールの上を走ることになります。その為狭軌のレール上も走れるようにやや車両幅が狭いようです。

さて、どんな一日になりますか・・・。



進行方向前方の「こまち1号」に乗車

車両幅がやや狭く、ホームから乗り込むためのステップが乗車口についていた。



3連休前の金曜日の所為か、大宮からは満席となった。

写真は根岸さん撮影、撮っている本人のみ記録写真から漏れてしまった。 約3時間の新幹線の旅であった。

【閑話休題】

盛岡駅で「こまち1号」と「はやぶさ1号」は分離。我々の乗っている「こまち1号」は在来線の上を在来線並みの速さで田沢湖駅に向かった。線路は単線なので、途中で列車が行き交う為の待ち合わせ時間もある。



9時21分 田沢湖駅到着

駅ホームには、田沢湖の伝説に因む大きな龍が飾ってあって、一瞬ギョッとした。



田沢湖駅舎外形

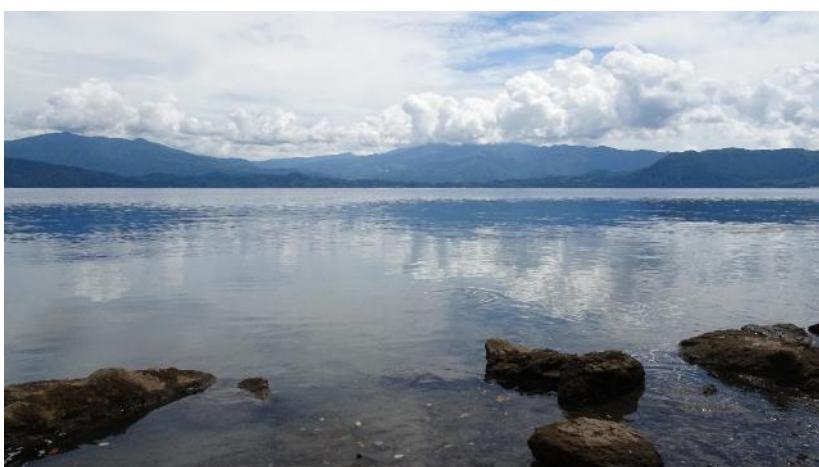
随分モダンなデザインであった。



駅舎の並びにあるトヨタレンタカーで車に乗り換え

6人が乗るので、少し大きめの車で2日間移動することにした。

車で20分も経たずに田沢湖畔に到着



周囲； 約20キロメートル ほぼ円形

水深； 423m 日本一の深さ

水面標高； 250m

従って、湖底は海面より深い



レポーター吉松の希望で、湖畔にバンガローのあるキャンプ場辺りを通過させてもらうことにした。

60年も前の高校時代に、仲間とバンガローに泊まって遊んだ記憶がよみがえった。

車で少し走ると、「たっこ像」に到着

*たっこ像伝説

永遠の若さと美貌を願った少女「たっこ」が、湖の水を飲んで龍となり、田沢湖の主になった・・・・

ネットで調べると、もっともっと色々な言い伝えもあるようです。

駅に飾ってあった龍は、「たっこ」が変身した姿であった。



「たっこ像」から800mほど歩けば田沢湖全体が良く見渡せる「明神堂」がある、との熊本さん情報をたよりに歩き始めたのだが、ついに見つけ切らなかつた。ひと汗もふた汗もかいてしまつた。

「明神堂」は諦めて「角館武家屋敷群」を目指した。

三連休前の平日だった所為か、渋滞は一切なし。11時10分位には「武家屋敷群」の桜並木駐車場に到着



今日の出発は朝早い新幹線であった。朝食も早くとった。昼には少し早い時刻ではあったが、まずは腹ごしらえと、食堂を目指した。

このところ、東北でも熊遭遇による事故が多い。こんなところまで、「**熊出没注意！！**」の看板が出ていた。



腹ごしらえには、「蕎麦屋」「稻庭うどん」の専門店が候補として挙がっていたが、結局稻庭うどんも比内地鶏親子丼も揃って楽しめる「桜の里」に決定



店内は狭く暑かったが、人気の店らしく壁には有名人らしき人の色紙が一杯



我々が頼んだのは、「冷やし稻庭うどん、元祖比内地鶏親子丼セット」。セットには「いぶりがっこも」付いて、べて@1890円也

お品書きには、比内地鶏の玉子3個と肉で作ったとろとろの親子丼とある。



- ・稻庭うどんの程よい冷たさ、麺のしこしこ感、つゆには旬菜も入って良いお味でした。
- ・比内地鶏の歯ごたえ、何とも言えない香り、そしてトロトロ感。確かにそんじょそこらの親子丼とは違った。
- ・いぶりがっここの程よい燻り具合が、また絶品

大変満足した。ただ、暑いのだけには参った。



店に早く入ってよかったです。

我々が店から出た12時位には、入店を待つ観光客が長蛇の列をなしていた。

お腹が一杯になったところで、黒塀の続く武家屋敷を散策した。

ゆっくり丁寧に見て回れば1時間も2時間もかかりそうな広さであったが、我々は、20~30分ほど通りを歩きながらの見学であった。今回は、屋敷の中にも入らなかった。

大きな桜並木も続いている、春の桜の季節の華やかさと、観光客の多さが想像された。



12時30分位に散策を切り上げて、田沢湖駅経由で乳頭温泉郷へと移動

田沢湖駅前の土産物屋「田沢湖市」に立ち寄り、ついでに宿で飲む日本酒を2本購入

「秀よしサキホコレ」「秋田限定高清水」

酒2本をゲットして、宿でのお楽しみ準備が完了した。あとは、明日の朝食の手配だ。

本日泊まる「休暇村 乳頭温泉郷」は、朝食が7時から。早立ちをしたい我々にとっては一寸遅すぎる。

やむなく、乳頭温泉郷に入る手前のコンビニで明日の朝食を購入することにした。

【閑話休題】

この店のお握りは殊の外まずかったようだ。H氏とN氏が同じように言っていた。米がポロポロだったそうだ。

さていいよ、乳頭温泉郷

今回は、7つある温泉宿の中から「鶴の湯」と「大釜温泉」の日帰り入浴にチャレンジ



13時50分

もっとも歴史が古いことを誇っている
「鶴の湯温泉 本陣」に到着した。



宿泊が可能な本陣風景とその内部
宿泊値段は少々お高い



本陣奥の受付で700円の入浴料を払う
と、あとは入浴自由
写真奥の建物群が湯屋

白湯、黒湯、露天風呂があった。



白湯、黒湯の違いは良く分からなかった。とにかく熱い。そう長くは入っておられるものではなかった。

露天風呂は、英文字で open air bath と書かれていた。意味が分かったのか、分からなかったのか、フランス人家族4人（お父さんと母親、娘2人）が浸かっていた。

露天風呂ではアブが近寄ってくるので、ゆっくり落ち着いて浸かっておれないのが難点であった。



本陣の門前にて

次に向かったのは、木造校舎（小学校分校）を移築して作ったという「大釜温泉」
乳頭温泉郷の中では、比較的奥まったところに位置している。



「大釜温泉」 15時到着

昔の小学校らしく、二宮金次郎の像が建てられていた。



入浴料は、同じく @ 700 円

熊本さん肝いりで、この温泉への挑戦が決まった。



同じ乳頭温泉でも泉質や色、臭いも大分違うようだ。白濁はしていなかった。

この温泉もやはり熱かった。

熱い所為か、皆早く湯から出てきた。



本日温泉に浸かった回数は4回目。鶴の湯の白湯、黒湯、露天風呂、そして大釜の湯

さて、本日の車で移動しながらの散策と温泉三昧はここまで。宿泊先「休暇村 乳頭温泉郷」に向かった。

15時35分



「休暇村 乳頭温泉郷」に到着



兎に角、生ビールをグイッ！といきたい。4回も温泉に入って生ビールが飲めないのは、地獄だ。ロビーでなら、生ビール グイッ！が出来ることが分かった。・・・何故か根岸さんは出遅れて、ありつけなかった。お気の毒！



ロビーで生ビールを飲んだ後は、夕食まで部屋で一献傾けることになった。

酒は、田沢湖駅前の「田沢湖市」で買い求めた「秀よしサキホコレ」と「秋田限定高清水」
つまみは、皆が持ち寄った乾きものや「いぶりがっこ」

2本の酒は瞬く間に胃の腑に入ってしまって、宿でもう一本調達する羽目となった。

山廃純米「飛良泉」これも中々美味かった。



話はずみ、酒は進む

3本目の酒は、中島さんが速攻で宿の売り場から仕入れてきた。



3本目を飲み干す直前に、18時の夕食時間が来た。「飛良泉」を抱えて、一階のラウンジに移動。
夕食はバイキング形式。一品、一品のどれもが美味しいとの、全員一致した評価であった。



いつものことではあるが、堀さんは食事をしながらコックリ、コックリ



食事開始から 50 分

堀さんは、ほとんど夢うつつ状態となっていた。

夕食が終わって部屋に戻り、就寝前のひと風呂に入った。本日 5 回目の入浴

堀さんも入ってきた。湯船の中でも夢うつつ。時々顔が湯の中に没しそうにしていた。
(熊本さんと吉松とで、注意して時々見てはいたが・・・)

本日出会った花々を一気公開



アジサイ



アカショウマ



ヨツバヒヨドリ



ヤブカンゾウ



タカネグンナイフウロ



イワハゼ



アジサイ



エゾアジサイ

かくして、初日は暮れました。

男性4人は、8時位には布団に潜り込んだのでしょうか。しっかりと記憶に残っていません。

翌朝堀さんも布団の中にいましたから、風呂場で大事は無かったことだけは確認出来ました。